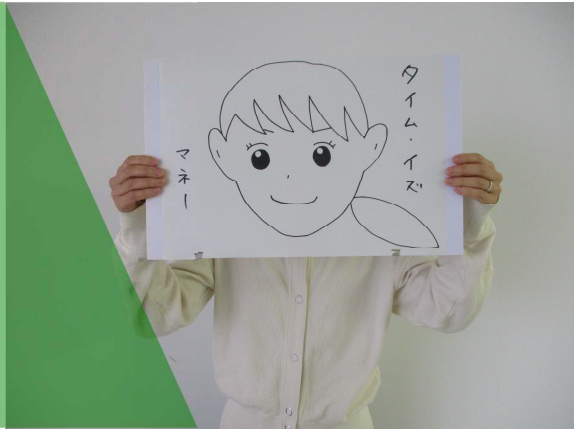


奈良地方検察庁

検察事務官(検務部門)

30代 女性/平成18年度 採用



モットー

タイム・イズ・マネー

Q.今はどんなお仕事をしていますか？

主に事件記録の受理（警察等から送致された事件の内容点検，事務処理等）及び処理業務（捜査官が捜査を遂げた事件の内容点検，事務処理等）を行っています。

Q.やいがいや達成感があった経験を教えてください。

被疑者が身柄を拘束されたまま警察等から送致される身柄事件の受理は，法令上等の時間制限がある中，令状手続等に間違いがないか確実に内容点検し，事務手続を行わなければならないので特に集中力を要する業務の一つであり，それを滞りなく終えられたときはやりがいを感じます。

また，警察等の窓口対応や電話対応で慌ただしい中，何件もの身柄事件に事件担当の職員全体が一体となって分担で業務に当たり，全て効率的にミスなく事務処理ができたときは何にも代えがたい達成感があります。

Q.働いている職場や職員の雰囲気はどうでしょうか。

今の仕事でのやりがいや達成感につながる場所でもありますが，現在，私が所属している検務部門は，特に職場全体の相互協力体制に対する意識が高く，誰か一人が忙しそうにしていたり，仕事を抱え込みそうになっていたら，自然に声をかけて仕事を分担しようとする気風があると思います。それぞれ正確な事務処理が求められる業務が多いので，誰か一人に負担がかかると職場全体のミスにもつながりますし，職員一人一人のワークライフバランスを達成するためにも，お互いがお互いを気遣う職場環境が醸成されているのはとても誇らしいことだと思っています。

Q. 検察事務官に必要な能力は何だと思いますか？

「多面的に物事を考えられる能力」

思考の柔軟性とも言えるかもしれませんが、検務事務に関して言えば、本当に手続関係はこれで間違いないか、何か落とし穴がないか自問自答することで過誤を防ぐことができると思いますし、捜査官として被疑者や参考人、被害者の取調べ等に当たる場面でも相手の立場や心情を理解し話を聞くことで、事実をより正確にくみ取ることができるのではないかと思います。

「あくなき探究心」

事件記録に当たる際は、日々変わる法令に対処しなければなりませんし、異動の度に新しい業務内容を覚えなければならないので、常に新鮮な気持ちで仕事に取り組みます。検察事務官として働くに当たっては、資料等の検討だけでなく、分からないところは物怖じせず周囲の同僚、上司に質問し、疑問点をそのままにしない姿勢も求められると思います。

Q. 子育てと仕事の両立について、教えてください。

6歳と3歳の子育て中です。産休・育休は2回取得し、それぞれ時短勤務で職場復帰しましたが、復帰した当初は、通常業務だけでなく法令改正やシステムへの対応、育休中にすっかり忘れてしまった知識の再習得なども行わなければならないので、仕事に付いていくだけで精一杯なのに、保育園へのお迎えの時間が来たら帰らなければならないジレンマに苦しむこともありました。それでも、過去に育児休業を取られた先輩方に相談に乗ってもらったりしながら、今では大分、自分の中で折り合いをつけて仕事をできるようになってきたと思います。

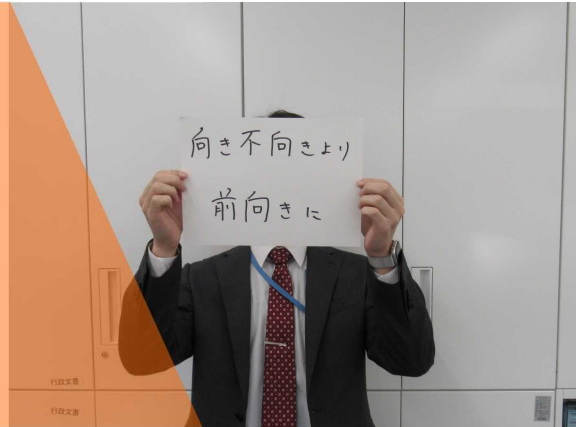
現在は、子供を保育園に送迎するため、フレックスタイムと昼休憩時間の短縮を利用し午前9時から午後5時15分までの残業なしの勤務とさせてもらっています。時間の制約がある中での仕事はやはり思いどおりに進まないことも多いですが、できないときは無理せず、周囲を頼ることも大事と自分に言い聞かせるようにしています。

また、周囲の同僚や上司に恵まれていることのありがたさを日々噛みしめています。

和歌山地方検察庁

検察事務官(検務部門)

20代 男性 / 平成30年度 採用



モットー **向き 不向きより 前向きに**

Q.今はどんなお仕事をしていますか？

私は現在、検務部門の事件担当として勤務しています。事件担当では、**事件の受理及び処理の事務**を行っています。事件受理時には、警察等の捜査機関から送致される事件記録を点検し、適正に手続がなされているか等の確認を行っています。特に被疑者の身柄を拘束している事件については、法律に定められた時間内に送致されているか等について、慎重に点検します。事件処理時には、検察官が作成した起訴状等の書類について、記載内容等を点検した上、裁判所に提出しています。

Q.やりがいや達成感があった経験を教えてください。

事件担当は、警察等から送られてくる事件記録の点検を**迅速かつ正確**に行う必要があることから、とても緊張感があります。特に身柄を拘束している事件記録については、逮捕から検察庁に送致されるまでの手続が法律に定められている時間内に行われているかということが、被疑者の人権に関わる重要な部分であり、責任を持って業務を行っています。このように緊張感や責任感がある反面、今まで経験した業務とは違う達成感を感じています。その他、事件担当は、**警察等からの受理から裁判所へ起訴状を提出する処理までと事件の流れが分かる**ため、とても勉強になるとやりがいを感じています。

Q.入庁してみて感じたことを教えてください。

今まで生活してきた中で想像したことがないような事件や、テレビや新聞で見聞きした事件まで毎日目の当たりにしています。事件担当になる前の徴収担当では、罰金などを納付せずに所在不明になっている対象者の所在捜査をして、手錠をかけて収容する業務も担当しており、入庁前は採用2年目からこういう業務を行うなんて思ってもいませんでした。家族にどんな仕事をしているか簡単に説明すると、「テレビの世界やな。」とびっくりされることがあります。私自身も少しずつ慣れてきてはいるものの、その責任の重みを痛感することも多々あります。

Q.働いている職場や職員の雰囲気はどうでしょうか。

職員の皆さんは気さくな人が多く、仕事中はもちろんのこと、仕事以外でも楽しく活動させてもらってます。部活では野球部とバドミントン部に所属しており、時間が合えば週末の練習に参加しています。どちらも検察庁同士の大会もあり、目標に向かって楽しく練習に励んでいます。仕事以外で職員の方と繋がりができることは日頃勤務する上でのコミュニケーションにも役立ちますので、入部してよかったと思っています。

Q.これから経験したい業務はありますか？

立会事務官を経験してみたいです。立会事務官とは検察官と二人一組で刑事事件の捜査や裁判を担当する検察事務官です。私は今まで捜査公判部門については未経験で、検察官とともに様々な事件の捜査や、起訴した事件の裁判に直接携われるところに魅力を感じています。人権に関わる重要な部署ですし、困難な事案に直面することもあると思いますが、それだけやりがいや誇りを持って仕事に向き合うことができると思うので、立会事務官を経験したいと思っています。